

いて

① 掲示活動による意欲づけ

学級経営のひとつとして、「みんなの詩コーナー」を設け、児童の意欲づけをはかるように掲示を工夫した。児童のすぐれた詩や他の作品等を掲示することによって、自然に詩をつくらうとする意欲のわく環境づくりに努めた。

② 外部投稿への挑戦

授業等で書いてきた詩が、良い詩なのか、指導してきたことは良かったのか、教師自身の自己評価と児童への意欲づけのために行った。

毎日小学生新聞、読売新聞への投稿により、三分の二の児童が、特選入選(二十三点)になるまでに至っ

詩

「高田敏子選」

きえたネコ

福島県川俣町小島小学校

四年

きたた
ネコ
しつぱい
きたた
ネコ
元氣
だつた
ネコの声
元氣だつた
おとなしがつた

かわいかつた
きたた
どこといつた
きたたネコ
悲しがつた
ネコの声

「きえたネコ」は、高田敏子先生の詩集「きえたネコ」に収録されています。この詩は、高田敏子先生の代表作の一つです。

た。

また、毎日小学生新聞(日曜版)

の「わたしの歌、みんなの歌」の作曲担当の先生である斉藤仁子先生の手により、「すずめ」「大きな手」「日めくり」に三詩が作曲され発表された。

④ 研究内容と方法(四)の実践概要につ

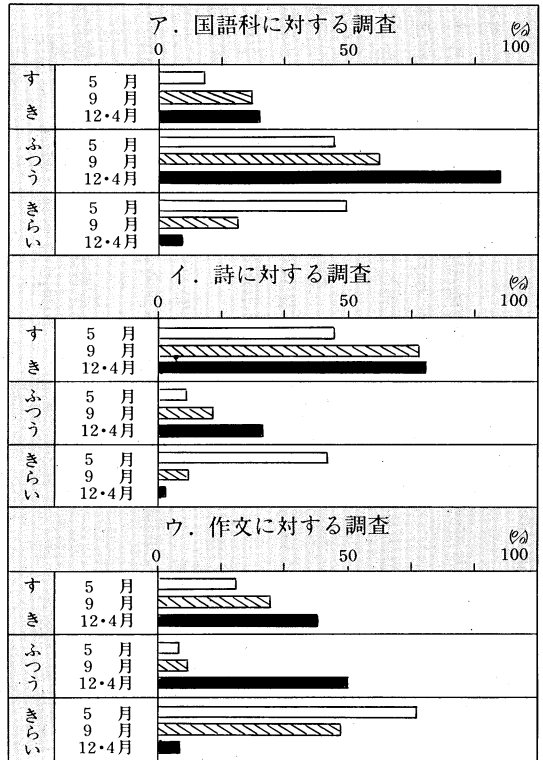
いて

一人一人を大切に、自主性を重んじる体験的学習を通して指導をする。詩教材を分析して作者の心を想像し、長文や絵画に表す。これによって、一層詩の心を理解する。学習発表会の出し物として、詩教材を扱った創作紙芝

精いっぱい生きて美しいしるし

詩曲 斉藤仁子
大きな手
わたしの ちっさいて
おぼろげに みるまに かわいそつて
きたたの い おぼろげの こころにい
いいね あらうて きらいか

資料 2.



居を制作する。協力と和を体験する。

このように、国語・図工の合科的指導を進展させた体験的学習を特別活動、生徒指導の領域に取り入れた。

五、実践の結果と子どもの変容

(一) 指導と子どもの変容

① アンケート調査による変化
下記のア・イ・ウの調査から、国語科に興味関心をもち意欲的になっていることが分かる。特に、詩に興味をもち意欲的になってきている。同時に、文字にも抵抗が少なくなり、作文活動にも意欲的になってきた。

② 一人一人の変容

一人一人の児童が、「ことばあつめ」や「詩の書き方」を知り、すば

A 君

気持ちの表れる詩が書けるようになりました。

投稿の前の様子は、見たものを羅列的に書くだけであって、感情や表現の工夫等は、およびもつかないものであった。やがて、指導の手を加えることによって、物を多面的にとらえ素材化し、豊かな表現ができるようになってきた。この時点で、外部へ投稿するまでに至り、ついに入選できるようになった。